

株式会社野村アーテック

株式会社野村アーテック

〒310-0841 水戸市酒門町3241
TEL.029-247-5211 FAX.029-247-5212
http://www.nomura-at.com
資本金：5,000万円
従業員：65名

エレベーターの意匠を中心とした塗装を行う。鏡面仕上げは、周囲が綺麗に映り込む高級感のある仕上りが特徴で、各エレベーターメーカーや、クライアントからも高い評価を得ている。

エレベーター塗装の分野において新しい技術や設備を導入し、今までにないデザインを提案。
今後は内装全般にもこの技術を投入し、販路拡大を目指す

取り組みの経緯

野村アーテックは1940年に創業し、エレベーターに関する塗装をメインに、一般工業塗装、リニューアルなどによる既存エレベーターの塗り替えや補修塗装などを行なっている。

エレベーター塗装の場合、あらかじめ図面通りに板金加工された扉や壁、天井などの金属製品に塗装をし、エレベーターメーカーに納入することが一般的である。しかし、内装材の場合は、パネルを塗装後に、現地の寸法に合わせて現場でカットすることが多い。塗装技術の一つ「ピアノ磨き塗装」は、新品のクラシックピアノのようなツヤと輝きに仕上げたもので、鏡のように姿が映ることから「鏡面塗装」とも言われている。高級感があるため人気があるが、切断の際、塗装が欠けてしまうこともあり、早急に対応が必要となった。素材の切断に対応できる加工性、抗菌などの機能性、そして美しいデザインの意匠性を兼ね備えた塗装を生み出すために、新しい手法やデザインの開発、塗料の開発、工程の見直しを行うことになった。



エレベーターホールは、扉や内装のほか、スイッチカバーや階数表示板など、トータルで演出できる

事業の具体的内容及び効果

塗装には防錆、美装という2つの大きな目的がある。中でもホテルや商業施設、オフィスビル、テーマパークなどは、内装にも高級感のあるもの、デザ



パネルソーを使って建材パネルを切断の様子。大きな素材にも対応できるようになった

事業概要

多様な塗装技術を用いて、優れた性能、機能性、加工性、意匠性を加味した高級塗装建材（高層ビルや商業施設などにエレベーターの面材として使用可）を試作開発。

イン性があるものが求められる。来客が目にすることが多いエレベーターもその大切な要素の一つだ。

同社では、デザインに関してはデザイナー、専門家から市場のニーズについて、一級建築士からは現場で求められる性能などの指導を受け、塗装と印刷、箔、CGなどを組み合わせ特殊塗装を生み出した。また、自己修復性のある塗料、抗菌性のある塗料の効果を実験し、刃物でカットする際の塗料および刃の素材の選定や条件出しも行なった。サンプルは茨城県工業技術センター（現産業技術イノベーションセンター）へ持ち込み、性能の確認を行なったという。

また、最近ではエレベーターや内装材として全長3000mm以上の大きな製品の塗装を要求されることが増えた。敷地内には、加工するものの大きさや目的に合わせて4つの工場を設置しているが、最新の第4工場では、最先端の設備を導入、縦吊りで3,500mmまでのサイズが加工できる塗装ラインを構築した。これにより、大型化する発注にも対応できるようになったという。

装やエンボス加工など、今回の事業により塗装のデザインは自由度がさらに高くなり、一つの発注に対して必要な大量の部品を、均一に塗装できる技術を確認できたのは大きい。塗装する材料も鉄以外に、ステンレスやアルミなどと幅広くなった。エレベーターだけでなく、内装全体に対応できる塗装技術を持つことができた。現在は、アートコーティングパネルという自社製品も誕生し、今後は、常に新しい表現を求めているデザイナーや設計事務所にもアピールしていく考え。そして日本だけでなく、世界への販路拡大を目指していく。

「一加工業者という立場から、塗装をブランド化し、この塗装を使いたいと思われるようになりたいです」と社長の野村英起さん。



展示会の様子。質感や色、デザインなど、世界へ向けて発信している

事業成果の活用・今後の取り組み

カラフルな色、メタリックやパール、鏡面磨き塗



野村 英起さん
株式会社野村アーテック
代表取締役社長

「技術の習得と最新設備導入により、生産性向上、品質向上、環境負荷軽減に努め、『技術とデザインの進化への挑戦を続ける』『驚きのある新しい塗装をお客様に届ける』を社是とし、日々成長する企業を目指す」